

戴帽式を終えて

准看護学科第 64 期生 加藤 裕美

令和 6 年 11 月 27 日、私達第 64 期生は、伝統ある本校准看護学科、最後の戴帽式にて看護師の象徴である憧れのナースキャップを戴きました。

入学当初からこの日の為に、「ナイチンゲール誓詞」の暗唱、そしてクラス全員で作り上げた「誓いの言葉」の練習を重ねてきました。

クラスの誓いの言葉では、これから我々が准看護師という道を歩んでいくにあたり、各々大切にしていきたい言葉を、一人一人から集め、それを戴帽式係 3 人で一つの文章にまとめあげました。そこには、クラス皆の想いだけではなく、日々支えてくださる先生方の言葉も織り交ぜる事で、今後の准看護師人生でふとした時に思い出せるように…。そのような想いも込めました。

誓いの言葉の中の一つに「常に心に向ける。」という文があります。この言葉は、「常に関心を持ち、患者様その人を見る（みる）」という事。日々の勉強の中で仰られていた言葉です。看護の勉強をしている今だからこそ伺うことの出来た言葉、心に響いた言葉、自分達にもそのような看護人になってほしいという想いが感じられ、誓いの中に入れさせて頂きました。



戴帽式では、会場がキャンドルの灯りだけに包まれた、荘厳な空間となり、2 年生によるキャンドルリレーから始まりました。その灯火はやがてナイチンゲールの手元で一つになり、我々 1 年生は、ナイチンゲールのキャンドルからその灯火を分け頂きました。

ステージから見た光景には、戴帽式に参列して下さった関係者様、日頃よりお世話になっている先生方、在校生、そして日々支えてくれる家族達の姿がありました。この日を無事に迎えることが出来たのは、私たちの成長を常にそばで見守り続けて下さった方達の支えがあったからに他なりません。

私達 64 期生の誓いの場にこのような素晴らしい式を開いて下さった事、そして誓いの言葉をお聴き下さった皆様方に、深く感謝を申し上げますと共に、この日の光景と、戴帽式での誓いを忘れることなく、これからの准看護学科での残された日々を、仲間と共に助け合いながら、一日一日を大切に過ごしていきたいと考えます。